

# 国東市民病院 臨床研究実施計画書

## 1. 研究のテーマ

当院における嚥下内視鏡検査の現状について

## 2. 研究の背景これまでの研究の概要

摂食嚥下障害の原因や背景因子は多岐に渡るが、現時点における嚥下機能を正確に捉える事は可能な限り経口摂取を続けていく上で必要である。

当院における客観的な嚥下機能評価として、2005年より嚥下造影検査（以下VF）を開始した。VFは透視室で行う為、寝たきりの患者など車椅子離床が困難な例では実施出来ない事もあった。2017年9月よりポータブルタイプの嚥下内視鏡検査（以下VE）が実施可能となり、ベッドサイドにおける客観的な嚥下機能評価が可能となった。

当院におけるVEの現状は、患者の全身状態や嚥下機能、直接訓練の進捗状況などを踏まえ、主治医と相談の上で検査実施を検討している。

また、2024年度より耳鼻科医が常勤となり、VEの件数は年々増加傾向にある。早期に経口摂取を開始する上では嚥下機能を正確に把握する必要があり、2025年度からは入院後早期にVEを行う体制を整えている。

その為、今回VE実施患者を詳細に分析し、VEの現状を把握し、課題・改善点を抽出する必要があると考えた。

## 3. 研究の目的

VEの現状把握や課題・改善点の抽出を目的に、当院でのVE実施者の全身状態や嚥下状態、VE結果やその後の経口摂取の経過等を後方視的に検証する。

## 4. 研究の方法

**【対象】** 当院入院後VEを実施した患者

**【項目】** 期間：2023年4月～2026年12月

統計方法：Cox比例ハザード回帰分析

従属変数：退院時の食形態にまで辿り着く期間

独立変数：年齢、VEスコア、認知症の既往、要介護度、入院前の食形態  
VE実施時期

統計方法：ロジスティック回帰分析

従属変数：入院後の誤嚥性肺炎発生率低下

独立変数：年齢、VEスコア、認知症の既往、要介護度、入院前の食形態  
VE実施時期

5. 参考文献

- 1) CLINICAL REHABILITATION  
臨時増刊 誤嚥性肺炎とリハビリテーション VoL.33 No.7 2024
- 2) CLINICAL REHABILITATION  
臨時増刊 摂食嚥下リハビリテーション における機能評価  
VoL.27 No.7 2018

6. 研究期間

2025年 6月 1日 ～ 2026年 12月 31日 発表年度 2026年度

7. 研究責任者

リハビリテーション部 総括技師長 中村 晋也